

## 会員の状況に寄り添った活動を！

### 会員訪問しながら商工新聞読者も増えた！

西支部役員が会員訪問、読者も増えた！

10月16日(月)午前10時30分に、支部長の宮内さん、小塩さん、岩田さんと事務局員の4人が集合。会員訪問の前に、小塩さんの近所の知り合いを歩いて訪問。スポーツ用品店では、「インボイスはどうしてるの？」と質問。「うちは、税理士さんに全部まかせきりだからよくわからない。番号は早くに取ったので、領収書には書いているよ」との話。理容店でも小塩さんが「今日は、お客じゃないよ。民商に入ってほしいんだわ」と切り出し、景気はどう?など対話。最後に、小塩さんのコーヒーチケットが置いてある喫茶店へ。小塩さんが「ほんとは民商に入ってほしいけど、とりあえず、商工新聞取って」というと、マスターは「いいよー、小塩さんに言われたら断れないがね」と読者になっていただきました。その後、体調を崩したと聞いているKさんのところを訪問。「治療のために、4月からまったく仕事をしていない。貯金を取り崩している」との話に、役員から「高額療養費の手続きしてある?」「制度は使ったほうがいいよ」など役員みんなが心配して声をかけていました。小塩さんは「月曜日でお休みの店が多かったの、休みだったところは自分でまわります」と元気いっぱい。その後、ひとり美容店のママさんにも話して、合計2人の読者を増やしました。



山田支部は支部役員に加納さんと事務局で訪問活動



10月21日(土)午前9時30分から、加納さんと事務局で会員訪問。6件訪問して会えたのは3人。コンビニオーナーのWさんの自宅へ行くとき夜勤明けの奥さんが在宅。Wさんは「実は相談に行きたいと思っていた。あれから本部の圧がすごくて、先日は夫が店で倒れて救急車を呼んだんです」と話し、「寒いのご苦労様です」とエレベーターに乗るまで外で見送ってくれました。グラビア印刷のレザさんの工場へ行くとき、奥さんと2人で作業中でしたが、どうぞどうぞと招き入れてもらい、インボイスやパソコン記帳についてなど、いろいろ話しました。

### 名古屋市は中小業者の苦しみに寄り添った施策を (市交渉報告その①)

10月20日(金)名古屋交渉が行われ、愛商連と名古屋市内の6つの民商から30人が参加。冒頭、愛商連の服部会長が「ゼロゼロ融資の返済が始まり倒産が増えている。価格高騰の影響が深刻だが転嫁できている業者は17.4%と報道されている。中小業者に寄り添った施策をお願いしたい」とあいさつ。共産党市議団の田ロー登議員団長からは「インボイス制度について、多くの業者の方から反対の声を聞いた。市議会で河村市長に質問した際、市長は『商売を苦しめてはいかん。10月実施はやめたほうがいい』と発言した。業者の実態をつかんで切実な要求を受け止めてほしい」とあいさつがありました。その後、「中小企業施策」「地方税」「社会保障」の3つの分野について話し合いました。最初に、名古屋北部民商会長の柳澤さんから「市は、令和5年度の上半期において景況のDI値がマイナス17ポイントとなり、15ポイント上昇していることから、市内中小企業の景況感は改善の動きがあると認識しております、と回答していますが、原油高、光熱費、物価高騰の影響があり、客足はもどらず、会員からはとてもきびしいとの声を聞いている。改善しているという見方はいかがなものか」と市の認識をただしました。西部民商森会長は「製造業では、リーマンショック以上に厳しい。半導体がまったく入ってこない。コロナで悪かった去年より売上はさらに半分になった。ものづくりの名古屋というが、このまま製造業がなくなってもいいのか」と発言。経済局は「以前と比べて指標がよくなっているということで、中小業者の皆さんの状況が大変厳しいということは痛いほど分かっています」と回答。また、新たに実施される「中小企業価格転嫁促進支援金」について紹介がありました。(中小企業価格転嫁支援金の説明会を開催します。追ってお知らせします)

次週、地方税、社会保障の分野について報告します。